

令和4年12月定例会 あいさつ

皆さまおはようございます。本日ここに、久山町議会12月定例会を招集しましたところ、議員全員のご出席を賜り、誠にありがとうございます。

2022年寅年も早いもので残り1カ月となってまいりました。寅は「動く」という意味があり、今年1年を振り返りますと町の動きも活発になり、新しい施策も数多く動き始めています。

また、2020年から続くコロナ禍での社会の様子は、新たな価値観、ウィズコロナへの動きが本格化した1年でもありました。来年の卯年は、飛び跳ねる姿から「飛躍・向上」の年と言われていきます。住民の皆さまの暮らしがこれまで以上に、豊かな年になることを期待しております。

さて、世界に目を向けると、世の中を一変させた新型コロナウイルス感染症や国際秩序の根幹を揺るがすロシアのウクライナ侵略、そして、一刻の猶予も許さない気候変動問題など、世界中で問題が多発しています。国内においても経済回復への足取りは弱く、石油をはじめ輸入資源の高騰による生活の困窮、コロナ禍でますます進む人口減少、少子高齢化、頻発する大規模災害など、大きな課題が複合的に押し寄せています。政府としてもこの難局を乗り越えるだけでなく、課題解決を成長エンジンに変え、持続可能な経済の実現を目指して、経済財政運営と改革の基本方針2022を打ち出しています。人への投資と分配、イノベーション・スタートアップへの投資、デジタルトランスフォーメーションの推進、新しい資本主義の動きを加速しています。今後も国の動向を見据え、町の成長につながる取り組みを全力で進めてまいります。

一方で、このような先の見えない時代だからこそ、自分たちの足元にある暮らしや資源を今一度見直し、変化させていくことも重要です。今年10月メディアから、九州・沖縄・山口各県の人口動態を元に市町村別人口が発表されました。注目すべきところは、コロナ禍での出生数の減少です。それにより人口は2020年の4分の3に減少し、国の推計を大きく上回るペースになることが報道され

ました。福岡県では、成長を続ける福岡市でさえ、増加は中央区・博多区のみとなっています。現在、人口が増加している周辺自治体においてもこれからマイナスとなることが予測されています。

しかし、そのような厳しい状況下においても、3自治体は増加となり、久山町は福津市に次いで2番目、2.2%増と予測されています。急激な人口増を凶らなかった久山町が、30年後も人口が減少しないことは、これまでの持続可能なまちづくりの成果でもあります。これからも本町のまちづくりを発展させ、次世代にも誇れる久山町を目指して、未来に向けた取り組みを加速する所存です。

引き続き、議会の皆さまのご協力をお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。

今回、定例会に提案します案件は、条例の制定、改正および補正予算（第6号）などの9議案でございます。

詳細につきましては、担当課長よりご説明を申し上げますので、ご審議のほどよろしくお願いを申し上げます。

令和4年12月5日

久山町長 西村 勝